花傳書　全

ヲ多リ
1.051

明治十六年
癸 卯月 潤之

義傳畧

藤田 秋國齋

ヲ〆9
1051

嵯峨流生花水揚書

當流ハ嵯峨天皇の數選まる玉液
足利將軍義政公清設正ありより
花道起り是の御翔好ハ御論樹木
始め當世ハ今至ル迄東山殿まての御

明治四拾年三月 購求

又なり此世此道の流義ハ悉く
當流より流出たるの時代の前
後を考へて後の若学輩ハ推知
あるへし

御傳之巻

一 石摺　根に渕を付て
　　　　やゝ見へし

一 仙代萩　根を隠見へし

一 鹿〻　同断

一 千日光　根を隠て七つに
　　　　　割てせしや

一 映山紅（キリシマ）［映］　同断

一 絹菜　沙ぶ川岸流産
所称ゆうて生んや

一 若雲直覚　根を四つに割べし

一 苴顔　土用入るとも扨よ
能つけをさ生ん

一 芽出柳　根ゟ段々出り分茶
付やく

一 萩　同断

一 独活（ウトウ）　同断

一 薊（アザミ）　同断

一 瑠枝枕丹（テニミ）　同断

一 鉛煙丹　同断

一 鉄、錬　同断

一 玉石（斗、）無行　同断

一 菜鄭　同断

一 金銀箔　同断

一 蔓荊子　同断

一 天神丹　同断

一 珊瑚樹　同断

一 水巴蕉　根をたゝき胡椒をまぶし汁を付て焼

一 無花果　根を剥汁を付焼

一 毋留　汁を付焼候

一 蕺（ト　キ）英菱　同断

一 絡（キヌカケ）樹州　同断

一 桔梗　同断

一 紫（アシサイ）陽　同断

一　九折九州　口訣

一　鷹羽州　口訣

一

一　口別傳

一

一　朝ヅ月　夜寒人口傳

一　水仙　花をうつる口傳

一　川骨　口傳

一　中傳之卷

一 葉牡丹　津と附茶を付無く

一 沢桔梗　同新

一 墨柳（セニノキ）　同新

一 仙翁　同新

一 新吉豆　同新

一 鳥甲　同新

一 雁皮（ガンピ）　同新

一 荷葉　同新

一 粟盛冊　同新

一 卯花　同新

一 石竹　同新 此花ム 勉よ

一 桔　此ニ 花隔侭

一 額(ヌカヅキ)冊　同新

一 大山蓮(カキツバタ)　同新

一 杜若(カラシ)　同新

一 芥(ケシ)　根ヲ潰シ附候事

一 萱艸　同新

一 木槿　同新

一 ゑなぐさ　同新

一 紫苑（シヲン）　同新

一 油とけ艸（ホトヽギスソウ）　淺ク生ル色

一 杜鵑艸　同新

一 さゆり艸　同新

一 藤袴　同新

一 芭蕉　　同断

一 廻特　　根を割り胡椒を
さしはさみおきて
さし候

一 律藤づき　　口傳

一 田村丹　　根に塩を付
焼候

一 寧々丹　　同断

一 芙蓉花（フヨウ）　　根をやきて水よ
葉ハ立生花を生ル

一 中別傳

一 杜若　葉子付る口傳

一 桔梗　莟の前ざる口傳

一 竹　竹一式口傳

一 葉々之花

一 蔓もく　根を切て浸して付　後同

一 萩　同断

一 三安栄　同断

一 佛手柑　同断

一 澤瀉　同斷

一 射干　同信

一 萑　澤瀉同斷

一 蕣鷄　澤ハ何くと又
濁くやし

一 薄（スゝキ）　根ハ澤ぶ川ぶ亡
濃く
根を割り胡椒を
はさ見湯を付申く

一 芭蕉

一 葉　江傳

一 錦（ニシキ）木　金　江傳

一 水引時　口傳

一 稲　口傳

一 櫻時　根をこかし酒を付候

一 芦辷時　口傳

一 水葵　口傳

一 呉河骨　外口傳

一 杜若　根を酒を付候　其葉ニて生ル

一 紅楓　根を削　焼酒付候

一 秋海ドウ　口傳

一 桐竹　口傳

一 藤　葉もはさみ生ル

一 鹹南天　葉ニ洞をつく
ふくろ風し
後ニ口傳

一 蒲　根をたゝき山椒を
きざみ汐を付浸置し

一 明るの中　同断

一 実、柳　浸生ル

一 笹輪桜　根を浸し生ル
風し

一 布袋葉　日新

一 鹿胡磨　根をたてヽ渡ヽ付
　　　　　世ヽ庵

一

一 墨判消

一 時雨柳　此ハ何ニても方　口傳

一 梅花　此ハ一方　口傳

一 逆　口傳

一

此之色紙書家雖貫因書依執心
今般令授与間他人不可有之者也

口傳控巻之也

一

朝顔

広間人 口傳

右花のひらかぬ間に切置く
くきのきを清き井戸の中へ
ぶらんとさげて置きて露の
あがる時まで花生れ其の
くきのきをとればさくさかへ
らくるなりやし

一 水仙　口傳　ちあるとなし

右花よりは付所どもかけりとく
こ水を切まて花のじくをとり
水にもこハをつけ置あきたく
生れ又は附薬といふものにまつを
生けておけハしほる事なく

一 川骨　口傳

右の水揚ハあまこのつきんを大
きれをとうくつ置てて其まゝ
水にもこハをつけおきて生る
爲

一 椿　　水あけ口傳

花ハ二三日もまへのつぼみにて
生れハ椿の花開きくつろぐ事
なし

一 連翹ハ焼にて　　口傳

根を焼き葉の二三分まてよく
水につけて扨きて生れ候

一 杜若　　たいけ方 口傳

此花の川ばたの草よりくものゝうちを
まきてあけば ひらくごとくを
水際の所にちよなるうすなり

一 椿　　花の落ざる 口傳

此花の落ざるハ花の中くら肩を
入て花弁を茎の本つるうなく
花を生ル酒くまじく事 以茎ヲ尾

一 竹

竹筒 口傳

右竹の水揚やくおせんを
せんじなおして入り
いともとろろどたまへてまゝ
次にさつほりとつけておきて
て生れ候

一 竹

張合 口傳

節の目方をなきやうにして手湯まて
竹をよくなめてなかきなし
だは張合くいかやう成とも
むすぶは夢る事なり

一 葉 口傳

あし木の花の落たかるうゝの
ある木なり 枝のおとく[redacted]
ぬれぬれてつけ来八あ川ある
なく

一 綿の木 口傳

枝に引てさて ぬれすよくつけ来ぐ
ぬのようあめるゝなり なり 生る時
また枝を切そいつける屋

一 水引草　口傳

右之艸ハみしが在乗しをと
小刀にて左ちハりとふとくれよ
つけあけハふとく水をはきかせ
けれハし花の先月ゝくるゝ事なく

一 稲　口傳

根にいれてふとく水につけ
切りて生花に又生花時ハ一寸
根を切くへう尺 根に生花にし
寸根ハ保ちめにて切くへし

一 葵金冊　口傳

漆象つきのあとくに波を
見し

一 氷葵　口傳

右之葵ハ水ニ楊如柳形リ之葵ハ
是ハ其の中ニふしぎなり之紋
色々ニありとてつきぬき
よく氷につけあきてける

一　岡川骨　　口傳

河蒸始まと日新につゝん

てし

一　鞦海ドウ　　口傳

水引のごとくにつゝん

屓し

一 棕竹　口傳

芭蕉つきのことはまへにしるす

一

一 南天　猪ぶよ口傳

右の木ハさくさあまていゆく
せんきうとせんじぬきぬく
きあしにきなつてんをのとく
なつてんのぬくもりにて猪
ふ庵しおゆうにぬく庵

一 時雨柳

古来の習あり雨のふる人とうかゞひし
とせんさうとせへして中へ柳を又
てあらくしくおけバよく水を揚るなり
なり又柳を生ず時ハ若悪き習くを付すて
流をかけバあぐれハ又雨水すて
生けハ雨ふれとも天気つけハ人が来る由く
外の水すていけるなり

一 梅の花　　めうい方 口傳

白梅の白き花でも紅梅となる技あり
千梅のまくおきりてそれを付のつて
へ入て竹中へ梅のわくをのせおけハ
白梅も紅梅になる

一 蓮　口傳

右蓮の水揚ハけいらんおこくハせうと云ふしと此三ツのをよくせんじさましてあらためての中へ作まていれハ一日一夜もつものなり其まゝ水につけおきてよし

一 椿　秘す　口傳

右新宅の祝義に時は椿をいるならバ白きハあしく又あかきもあしく志ほりめてく又志ほりの花かなき時ハ白に又赤き時ハあかき花をしほりよ赤きのあり赤あかき花をしほりといいかるようけおれハふくといふゆへしその花をさけてかけ田あんをくきくハけむりのあをりにとほうの花ハ白きになる也へ田あんをくきく下座

一 鮑蔵　口傳

鯛の頭ハ動のはらたけひくくるすなけ
まへも出ん先生の中く鮑蔵のしくよ
益子お一枚宛切りけて出ん尾し五動の
つりみの乃たけきくるすなり

一 竹　口傳　此稿ハよう

花舟を割て出る時ハ酒をとくくと
たきて五酒を割て竹ハなすの竹ハ竹の
めてくあと能く割て出れハめくくのごとく
いくすべし

一 竹

口傳

角はせんのごとく
なす候べし

青葉のさきをつけたると
床にも用ゆべしかと　右は二色
右は二色ともにめぐく竹をわきとあかる
事しかるべし

一 蓮

口傳

とめのつぼみにて
いくたくべし

この世ニすくと
もしくさと
ひらきかけてと
右は三色をせんしよく
揚ハ候べし

一川背　口傳

遠のとりいつくす屋

紫雲家秘書目録

一花盆圖　一五節句祝花

一中 花ノシ　一中 差合花之事

一中 城中花　一中 新宅移初之花

仕リキライ花之事

一 中 餞別之花

一 薄板麻並様

一 香道花

一 床花書院花

一 舟七種花

一 中 聟入婚禮祝花

一 芭蕉葉組変

一 牡丹花之傳

五節句祝花

正月
松竹梅柳
水仙福壽草

三月
桃柳 若枝ヲ用ユ

五月　華　シヤウブ　アヤメ

七月　七種　萩ヲミナヘシクズ花スヽキ
ナデシコアサガホフジハカマ

八朔　木擇　羽　衣　草

重陽　菊　黄ハ赤白色

木花　草花

〃〃有　〃〃有

巻八

城中花之心得事

差合花之事

二ハ梅アラバ梅ヲイム
掛物ニ菊アラバ菊ヲイム
余ハコレニ准ズ

椿ノ花茶ノ花共両用ヒズ
武家ニ刀ニテハ草物祝ブ

一 水上傳　　一 同別秘傳

一 大極意水揚傳　　一 花道免許

一 濫觴秘書　　一 法度書

花盆之圖

巾壹尺九寸五ア
長サ三尺二寸

木花
草花
小刀
ハサミ
ノコギリ
水サシ
フクサ

新宅家移リ祝花
同キラフ花
餞別之花

白牡丹用ヒ吉
冨貴ノ卌トイウ
色赤キ花ヲイム
又ヒノエヘ百花炎而用ヒス
柳ヲムスヒテ生ル
又蓮ギヤウヲムスビ生

二薄板床ニ直ニ様之事

タヽミ床ナレハ薄板縁ヨリタヽミ目十九目カナ一目ニナク也日クレニハ十一目引出ス也

板床なれハ板縁あらすもて

釣花生之事

ツリ舟ハ掛ナニテシキ折釘ニ掛ル
床内ニアル時ハ床板ヨリ二尺七寸上ケテ釣也

床天井ニアハリニテナクノ一分ヒル釘ナロナツル也

聟入祝之事

水仙

根ヲ水引ニテムスヒ生ル 又水仙ナキ時ハ作花用

婚礼祝花

白玉椿

一花一葉ツイヘイコレナイロ直マテナク也
又白玉椿ナキ時ハ作花用
花生ハ青竹ウス板花タイ白木地用エヘシ

本一式ハシヨリ下生

新枕之祝花

松　一式　定法也

色直シ祝花

赤椿　一花二葉　葉ヲ巻トメニシテ生ル

庚申待華

花七種

花有合ザルタトヘハ菊一色ニテ其色カハリタレバ七種之数ニ調ヘ生ル又一種ニテモ七拍子ニ生ルモヨシ

猿田彦御神ナルカ故也

香道之花

本式ハアシノ葉ヲ生

ナニヽヨラズ旬有花ヲキラフ也

芭蕉葉　七枚組

破折竹巻　矢筈　凡

枯葉

以上七葉

水揚之傳

砂唐水フキ掛生ル

芦

根本壹寸往削リ大根ヲロシ水入ル

糸櫻

上茶ヲセンシタンシヨリサマシ生ル

蘭之花

藤之花　酒ニツケ火ニテ焼クニ立水ニテ生ル

梨子　櫻ニ同し

紅葉　根元ハリカラシヲ入テ生ル

ナモグカ　ドロ水ノ入ニタル所クニ生ル

クンザウ　同し

ナキノ花　同し

コリ　根ヲ焼カトウ水ニテ生ル

スヽキ　入ニテ生ル又葉ハニモ忌也

シウカイトウ　夜中ニ切根ヘフシヲ割ニ工湯ニツケ水ニテ生ル

朝カホ　ヨイ二切竹ニテハサミ井戸ニツリヲク

ビハ　シホ水ニテ生ル

サヽン花　同じ

福壽草　カントウセンジヨクサマシ生ル

シヤクナキ　白水ニテ生ル

桔梗　根ヲ焼リミ豆ノ水ニテ生ル

ザクロ　ヲウキヲセンジソノシルニテ生ル　又ヰヽレンヲセンジ用ユ

椿　花ノ内ニシヲ入シヲ水ニテ生ル

ツハ　朝切根ヲ湯ニツケ水ニテ生ル

梛　根元ヲ火ニテアブリタメ塩ニ生ル

牡丹　切口ヲトモシ火ニテアブリ水ニテ生ル
但シ鉄ヲキラウモノ
中川

杜若　根ヲヤキサトウ水ニテ生
但シ鉄ヲキラフモノ也

アヰイ　切口ヲコガシ水ニツケ石(セッ)カウ入生ル

ムクゲ　新枝ヨコニヨイニ切ヨク日生ル

ギボシ　根ヲニエ湯ニツケサカ水ニテ生ル

カキツ　同じ

葉ケイト

萩ノ花

根元アナヲアケトウガラシヲオヽトウ
カラシ水ニツケ半日アマリ井戸ニオカ
サマニツリオク

ニエ湯[redacted]ニテ生ル又葉ニモカケ

別秘傳水上ケ

竹

川骨

蓮

子ノ刻カ午ノ刻ニ切ヤフノ傳有
ヤウナヌキ酒ニ石カウヲシテ水ニ
メカヽミテ生ル　又アせん茶一味もよろし
テサンミヤウセンジ根元ノ水元
又アセン茶カンゾウヨムギ　三品用
上茶　白サウ水　上口傳ナリト云

牡丹花之傳

此事をかわり花をしくこしへたるがよし
黄ハ赤白　うすべに　むらさき紅

一位

めくち花をしらかしたるがよし

二形

一日に二度いろかはるを　ちんちやうていといふなり

三　色

一　黄ら　　ひかりあり
二　白　　　つやあり
三　うす紅

四　重

一重ハ五ツ　　八重　ハ花ひらふあり
　　　　　　　　　　五十といへる
千重ハ　　五千分百といへる
万重ハ　　百分以千といへる
かくちちいさきがあり
うちむらさきも花を萬なるに右

五　實

六　蕋（シベ）

黄いろにしてちいさきがよし

七　萼（ウテナ）

小花びらにしてあつくらく
ゆるがぬがよし

八　葉

小さにしてかくしもへるを
わけたるがよし

九木

きなきにゆくへていろよく
見ゆらくに尺ゆがめし

牧舟を尺る時ひる年し刻ありさへに尺
べし尺るときハ九ッにうけらるひを
見風し

急救九拾餘品

釘打様

下分三尺四寸 天之陽之氣也
廿八宿ヲ表ス

下分三尺六寸 地之陰之大人

三尺八寸ハ三拾六道日月ヲ表シ五行

右三種ハ神代ゟ傳ル

一九月心

如くし灯ハ当国家主雄尾寸法ヲ以打也

水鉢ハ宗旦之好ム

川骨

蓮

竹

大極意水揚秘傳

焼蕪毛 飛

肝 水鉄 石汁 キリ口焼

又阿 又 石灰粉

青葉 木賊薬曽 三味湯

飛文 又阿仙茶一味

呪閑道　八（カ）平安（カン）鬼（ヒヨ）

通輪　根ニ阿不羅津毛家ユヤ水ニ入ナリ

夏喜久　日佐汁宇津

阿士　日水ニ

黄金草　唐土ナ根利切口附焼水ニテ

南天炒　上西化　結フ二八金剛砂

朝賀保　元ノ葉一枚花器ニ入

無ク花　生ナ阿津木湯ニ入ル

葉喜

葉討唐

水青飛

飛燒毛ニセン一筋出てう
花生ノ中ヘ両く田入ル

切口阿不四維

方キ竹ミテ下ノ方ハキートン
水八斗ナリ

夫華道者依神代始禁廷之
大式十二之拾式者我家之惟
為秘决依而懇望令授與焉
堅他言不許猶愼々而大切ニ
相可守者也依免許如件

養尾玉雲齋將監 印

授與

玉龍齋 江

天保四癸巳歳
中冬

華道之大意

夫華道之濫觴尋昔於神代猿田彦太神百華天甕壷貯以齋咒除禳悪虫賜是天下華道之濫觴兮然者華器以磁陶上品為與其後諸越商武丁洛水嶋邊而諸候會酒宴時鴆鳥為除毒酒

器金盞内桐花挿生賜是大唐生華濫觴兮依其物換星移本朝　應神天皇御宇百濟國之王仁來朝之時籃籠黃赤白菊花生朝廷奉献其後聖德太子蕊白椿五形三體之華定賜其後天平勝宝時吉備大臣渡唐歸朝時華道通

考記意大傳之書持飯賜依是
華道意躰益倍盛也五運八
風君臣父母兄第明友形氣
道華道之為悉初竹器用
支天正年中太閤関白秀吉
公小田原依陣中始華器水极
用支東山殿金殿之内疊莚湿
氣為厭始馬盤者宗易居士

始水盤者三伏之比石臺以釣花
生元翹系釣後鐶用支者玄旹
法印始之花配者以利休為濫
觴是華道大意堅可秘々々

右真仙流華道之大意條々并
水揚之傳式作法者我家之惟
為極秘依而懇望令授與之
不許愼而大切可相守者也

養尾玉雲齋將監

授與之

一 椿
一 椿
一 石竹

作ら色

花前安キ物又者ア句氏ニ
植ヰ入盃侯し如之

枝手まけるものと終り火まそ
まける

赤椿白き花ハとなる
イ中ニ花ナ下ニ中と云侯

梅ハ水忌侯
水ハ水ハ不用れ也

一 杜若の毛　右同断

一 桔梗　根色也記

一 烏兜　同断

一 鳶尾　同断

一 仙翁花　同断

一 萱草　同断

一 松本　同断

一 家野　同断

一 虎の尾　同断

一 九階草　同断

一　大手毬　同断

一　小手毬　同断

一　木瓜　同断

一　柘榴　同断

一　捻てつの花　[redacted]

右花ハ庭ニ有之
心柱庭ありにはをそ永ニ付
並ハ右の如く覆之

是より菓子傳

一　蒸鶏卵　タくキヅル

一　蒲　センキウタリ

一　木槿　二五エ二付壷庵

一　夏蒙　ツル　サカサマニ　サケカケル

葭

サトミト

合ミ 然[redacted]久キウ生ル

蒋菜

[redacted]多くキク白ガロニ 付ル

沢うりし

ヤキ 竹 ○ヲミ

蓮の葉 慈

ニエニウヽ○ヲミ

美キ 慈ハ絵ヽと正白

他見他云 析言翁之上 以傳

うら波をも也

後之葉

水仙

出目ミあしらく並瓶慈たし

水ミ付並ハ此等なるや

水仙

慈ヲまけるま傳

又おもしろナぬくめ是にて

ほまけける

水仙

花ハ水仙ヲ忌ナリ

水かくれハあら月れ事し

南天の慈

日野

沢桔梗

ヤキ

翁讃丹

日野

一 唐薊　日新

一 うつぎ　ヅル

一 仙翁花　ヅル

一 嵐尾草　ツル

一 高麗菜　ツ新

一 あぢさい　ツ新

一 雲のみどり　ツ新

一 秋の菜

一 夢の夕咲

一 朝の月

一 逆薊

ヤキ

容の弥ぶかの向于新中
弥修吉平新ッ于キモ
[illegible]
白の菜一枚のよし
生るゝ
志くみ君りを和こひ
さて[illegible]せつて
君まつ柳や

一 萩　ツル

是ゟ奥傳

一 牡丹　アマニタリ

一 鹿錦慈　ツル

一 鹿嶋様　ツル

是ゟ奥傳

一 竹柳　ヤキ竹　○コこ

一 水葵　日影

一 黄金丹　カラ付ヤリ

一 九輪草　日影

一 七輪艸　月新

一 重　作　アリタキ

一 河　セニキウタリ

一 笑　作　オニテタリ

一 大名　作　アリニタリ

一 牡若の夢　夜のあかさりふの夢之　アリニウタリ

一 鳳凰　作　ヅル

一 舟之　作　ツル

一 紅　夢　ツル　大水なれは　水水也

一 暁　作　ヅル

一 聚者　すゞ〔カ〕ナ花葉て口傳

一 穆海棠　八ツ 労バナタ〔キ〕[redacted]

右ニ録ヿ条義ニ重意口傳ヲ以テ

從是ハ拙者納定シ上相傳致ス也

穆ノ意

一 蓬 雁　切口ニナ文ル

一 櫻 重　り

一 だんとく　り

一 毛 巻　蜘の[redacted]〔巣〕ニうとあるよ

一 田村時　ヤキ

一 菱　タヽキヤリ

一 繻縮　ツヾル

一 黄山華　ツヾル

一 夢鶴水　ツヾル

一 鞍弁桃　り切

一 巴菱　タヽキヤリ

一 蔵綾　り切

一 岩蝋　ツヾル

一 菱萱　引割

一 佛丹毛　引割

一 阿ふせ山庵　日記

一 菜乃花
切志見れたり左振く
うらに
一夜明て付るハ
松の如くり

一 海堂　ツル

一 百紅　ツル

一 かわ川時　子ぜんたまたく

一 もとつ継竹　セニタリ口伝
剃竹ハ深の事もあり
右三十ケ条ハ秘の事口伝有之て
他見他言之誓約之上相伝之の儀也

智の巻

一 盃宗竹
剃竹
チヤリ
ハアキ
コモリ
右之タリ口伝あり

伝の巻

一 筆

異字號

セキアリ

トノシ

リワカウ

ロコヱ　口傳あり

一 附り 河骨

カウ生

大星の時分あし

サイ升〇

大極意水揚秘傳

おもだかハ 焼 薹(モ) 毛 尾

川骨

天 肝 水一 一五 水鉄 戸汁 肝 キリ口焼

魚寸五ア 又 阿(水秘) もろ石 戸粉 又

上子や 五合 青山 心乙女

白舌わ 白箸粉 二もんめ

水 山粒山五六粒 枚之寸 伐茶辺 まてキリ 柳周

蓮

青葉 木 藥(チヨ) 智 三味湯

竹

飛(ミヨ) 艾 又 阿仙茶一味

[illegible]